

早稲田社会学会ニュース 第31号

2008年4月17日発行

早稲田社会学会事務局
〒162-8644 東京都新宿区戸山 1-24-1
早稲田大学文学部 社会学研究室内
Tel: 03-5286-3742
E-mail: socio-office@list.waseda.jp
URL: <http://www.waseda.jp/assoc-wss/>

今回のニュースの内容

1. 第60回早稲田社会学会大会および総会開催のお知らせ
2. 本年度大会シンポジウムについて
3. 大会一般報告および『社会学年誌』第50号投稿の募集
4. 2008年度研究助成の募集
5. 第29回研究例会開催のお知らせ
6. 早稲田社会学ブックレット刊行開始のお知らせ
7. 入退会者のお知らせ
8. 学会費納入のお願い

1. 第60回早稲田社会学会大会および総会開催のお知らせ

本年度の早稲田社会学会大会および総会が、2008年7月5日(土)に、早稲田大学社会科学部(早稲田キャンパス)において開催されます。シンポジウムのテーマは「戦後日本社会と早稲田社会学 Sociological Lives」です。詳細につきましては次項「本年度大会シンポジウムについて」をご参照ください。大会会場、ならびに一般報告などを含むプログラムの詳細につきましては、6月中旬にお知らせする予定です。

事務局では大会での一般報告を募集いたします。報告を希望される方は、第3項をご参照のうえ、事務局宛までお申込みください。

2. 本年度大会シンポジウムについて

テーマ：「戦後日本社会と早稲田社会学 Sociological Lives」

報告者：佐藤慶幸(早稲田大学 名誉教授)、正岡寛司(早稲田大学 名誉教授)、濱口晴彦(創造学園大学 早稲田大学 名誉教授)

討論者：那須壽(早稲田大学)、山田真茂留(早稲田大学)

司会者：山崎哲哉(武蔵大学)、周藤真也(早稲田大学)

<趣旨説明>

1947年に発足し第1回大会を開催した「早稲田大学社会学会」は、1990年に早稲田大学関係者以外にも広く門戸を開くという趣旨で改編され、その名を「早稲田社会学会」と改めた。そして本年度、歴史ある当学会は、記念すべき第60回大会を迎える。

この間、日本社会は、戦後の貧困・混乱期から経済の高度成長を経て、消費化・情報化・管理化・個人化・グローバル化等が同時進行するなかでドラスティックな変化を遂げてきた。この半世紀以上にわたる社会の変化を早稲田社会学がどのようにとらえてきたのか。歴代の学会長にそれぞれの研究の視点からご報告頂き、21世紀の日本社会の未来と社会学の可能性を模索することにした。

(文責：研究活動委員長 山崎哲哉)

3. 大会一般報告および『社会学年誌』第50号投稿の募集

申し込みを希望される方は、以下の項目をA4の用紙1枚に記入し、事務局宛てに郵送又はE-mailにてお送りください。両方に申し込む場合には、それぞれ別の用紙で申し込みをお願いいたします。

大会一般報告、または『社会学年誌』第50号投稿、のいずれかを明記してください

- (1) 氏名
- (2) 所属
- (3) 郵便番号、住所、電話番号、FAX番号、E-mailアドレス
- (4) 題目（副題を別として25字程度まで）
- (5) 内容概略（200～400字程度）

大会報告：申し込み締め切りは、5月20日（消印有効）です。

『社会学年誌』投稿：申し込み締め切りは、6月30日（消印有効）です。

『社会学年誌』原稿の提出締め切りは、8月末日（消印有効、郵送のみ受付）です。申込書提出後の題目、内容の大幅な変更は認められませんのでご注意ください。また、申込後に投稿を辞退なさる場合は、8月15日までにその旨を必ずご連絡下さい。なお、分量、書式その他、投稿規定については、『社会学年誌』の最新号（第49号）をご参照ください。

現在早稲田社会学会会員でない方で発表もしくは投稿をご希望の方は、上記の申込書とあわせて入会申込書をお送り下さい。入会申込の手続きまたは申込書の入手方法につきましては、学会HPの「入会案内」をご覧ください。また、事務局にお問い合わせください。

4. 2008年度研究助成の募集

これまでに当学会に寄せられた寄付金により、寄付者のご意思を尊重して、次の要項により会員各位の研究活動を助成いたします。

助成対象：早稲田社会学会の発展に寄与する研究活動

助成額：1件30万円程度を上限とする

助成を希望される方は事務局までご連絡ください。追って「申請書用紙」をお送りいたします。申請書の提出締め切りは、5月20日（消印有効、郵送のみ受付）です。なお、「早稲田社会学会研究助成取り扱い要領」の規定により、「助成の直前の年度まで継続して2年以上の会員歴がある」方が対象となります。また、研究助成を受けられた方には、学会大会一般報告（または学会誌投稿）により、その成果を報告していただくようお願いいたします。

また、この趣旨に賛同される方からのご寄付も募っております。寄付についてのお問い合わせは事務局までご連絡ください。

5. 第29回研究例会開催のお知らせ

第29回(2008年度第1回)研究例会が下記の要領で開催されます。多数のご参加をお待ちしております。

テーマ:「格差と貧困について考える」

日時:2008年5月24日(土) 14:00-17:00

会場:早稲田大学文学部(戸山キャンパス)第1会議室

司会者:木村正人(早稲田大学)

報告者および題目:

麦倉哲(社会学者)

「格差社会とホームレス ホームレス問題の広がりにおける社会的排除と社会的包摂」

概要: 私は過去約20年間にわたり、たくさんの日雇い労働者やホームレス状態にある人びとと出会ってきた。ヒアリング調査を通じた私の解釈や、こうした人びとのお付き合いから導かれる共感を通して、1990年代以降の日本社会の問題点について考えたい。社会問題としての深刻さが広がりを見せているわりに、その深刻さを社会的に共有し、問題を解決するための方向が見通しにくくなっている。とりわけ為政者や政策立案者など、社会のリーダーとして責任を果たすべき人々(階層)の取り組みがとりわけ脆弱に思える。その原因は、格差社会を見えにくくする画策が続けられた結果、格差社会を肯定したり、それに抵抗を覚えない世論形成がかなり浸透してしまったせいだと思われる。実態を知ることそれを社会的に知らせること、具体的な政策を提案し実現させることについて、社会学の存在価値が改めて問われていると思う。

湯浅誠(NPO法人自立生活サポートセンター もやい/反貧困ネットワーク事務局長)

「反貧困の現場から」

概要:日本社会に貧困が広がっている。貧困の実態にどう向き合うかは、社会学のテーマでもある。マクロデータを押さえるだけでは、貧困の実態に対応できないからだ。学者でもジャーナリストでもなく、貧困の現場で活動してきた活動者の視点で、今必要と思われることを報告したい。実態報告が中心となるが、長期的貧困と短期的貧困を区別する必要性などについても言及する予定。

6. 早稲田社会学ブックレット刊行開始のお知らせ

早稲田社会学会記念事業の一つとして3年前に企画され準備を進めてまいりました「早稲田社会学ブックレット」が、2008年3月および4月に最初の9冊が刊行されました。これまで、総会においてご報告させていただきながら予定よりも大幅に遅れており、会員の皆様にも出版を引き受けていただいた(株)学文社にも大変ご迷惑をおかけしてしまいました。何とか刊行にこぎつけることができましたこと、改めてご協力いただいた皆様、および学文社の田中千津子社長にお礼を申し上げます。このあとも引き続き順次出版されていく予定です。執筆者の方々へのご協力を重ねてお願い申し上げます。

〔社会学のポテンシャル・シリーズ〕

大久保孝治 『日常生活の社会学』

嶋崎尚子 『ライフコースの社会学』

長田攻一 『対人コミュニケーションの社会学』

〔現代社会学のトピック・シリーズ〕

岡本智周 『歴史教科書に見るアメリカ』

〔社会調査のリテラシー・シリーズ〕

嶋崎尚子 『社会を捉えるためのルール 社会調査入門』

西野理子 『社会をはかるためのルール 社会調査入門』

澤口恵一 『分布をみる・よむ・かく 社会統計入門』
天野 徹 『部分を調べて全体を知る 社会統計入門』
池 周一郎 『社会の「隠れた構造」を発見する データ解析入門』

7. 入退会者のお知らせ

2008年3月22日の理事会において次の2名の退会が承認されました。

大嶽宏介氏 浦邊浩之氏

8. 学会費納入のお願い

今年度の学会費を、同封の「郵便振替払込書」にてお振り込みくださいますようお願い申し上げます（今年度をすでに納入されている方および名誉会員の方宛てには、払込書は同封しておりません）。

年会費： 一般会員 5,000 円 学生会員 3,000 円

口座番号： 00100-3-38020

加入者名： 早稲田社会学会

新年度にあたり、ご所属・ご連絡先等に変更がありましたら、その旨を通信欄にお書き添えください。

会費を3年以上滞納されますと、2000年7月8日の総会決議および2000年12月16日の理事会決議にもとづき、会員資格の一部が停止されます（次の3つの権利が失われます。学会大会で報告すること 『社会学年誌』へ投稿すること 『社会学年誌』の配布を受けること）のでご注意ください。

以上